

2019年4月1日（月）15：40～16：40

新任教員FD研修

「信州大学で充実した教育・研究生活を送っていただくために」

＜本日のプログラム＞

1. 信州大学の教育について
理事（教学担当）・高等教育研究センター長 平野 吉直
2. 高等教育研究センターによる教育・研究のサポートについて
 - 2－1. 高等教育研究センターの紹介（副センター長 加藤 鉦三）
教育支援と研究支援について
教学関連の第三期中期計画
 - 2－2. 各担当紹介（センター専任教員 李 敏・矢部 正之・加藤 善子）

※配付資料一覧は裏面にあります。

<配布資料リスト>

- 1つ目のポケット

- ◆ プログラム

- 2つ目のポケット

- ◆ 高等教育研究センターあらまし/FDのご案内

- 3つ目のポケット

- ◆ 資料 No.1_高等教育研究センター教員の職掌のご紹介

- 4つ目のポケット

- ◆ 資料 No.2_「2017 年度学習時間に関するアンケート」報告書

- 5つ目のポケット

- ◆ 4月22日（月）eALPS 研修会（入門編）の開催について（通知）

- 6つ目のポケット

- ◆ アンケート

高等教育研究センターのご紹介



副センター長 加藤 鉦三

■当センターの戦略

個々の授業で『学びの手ごたえ、学びの実感』

- 個々の授業で「やればできる」を体験
 - 新しい環境でも「やればできる」と思える
 - 「信大の卒業生は『自分はやればできる』ということを知っている」
文科省が何と言おうが、これができていれば問題なし

■戦略実現のために

「信大の卒業生は『自分はやればできる』ということを知っている」

これを実現するために、信大は、「やればできる」と学生が思えるような授業を提供していく

その助けとなることをめざして、当センターはFDや教務委員会等を通して活動している



センターが先生方の**信用**を得なければならない

■教育支援

・FD活動

「学びの手ごたえ、学びの実感」を大切にする授業デザインを中心に

- ・eLearningの活用
- ・学生調査データのフィードバック
- ・教育方法や学生との接し方などのワークショップ

■研究支援

- ・教育実践をセンター員と共同研究に

センター員とシラバスを検討、実践したことを発表して業績に。

■教学関連の中期計画

①個々の授業で『学びの手ごたえ、学びの実感』

⇒ ②「信大の卒業生は『自分はやればできる』ということを知っている」

①を基盤に、②に収斂するように舵取り

計画達成のインフラは、先生方の「やってみたら効果があった／達成感があった」

■ポリシー

- ・学生の満足感なくして教育効果なし
- ・**教員の満足感**なくして**学生の満足感**なし

学生の満足感は、「(先生が教えた、ではなく、自分が) 授業でやった、そしてできた」の成功体験から



そういう授業デザインをお手伝いする

李敏の自己紹介

李 敏（り・びん）

名前は**李 敏（り・びん）**ですが、この名前で信大で検索するときには、ヒットしない可能性が大きいです。

というのは、信大における登録名が**LI MIN**ですから。

ただし、日常生活では、いつも「鄭さん」（夫の名字）、「逸馨さんのお母さん」と呼ばれています。

日本に来て、思わず夫婦別姓のありがたさを感じさせられる経験です。

先生方からは、**李 敏**と呼んでいただければ嬉しいです。

中国蘇州の出身です。蘇州は、鹿児島と同じぐらいの緯度にあるものの、湿気が強いため、冬は寒さが体の芯まで染み込みます。ですので、信州のような「素直」な寒さがずっと好きです。

専門は教育社会学、高等教育学と比較教育です。

具体的には大卒者、大学院修了者のキャリアパス、大学院教育、留学生などの高等教育の国際化などの研究をしています。

信大では、大学院教育と**学生調査**を担当しておりますが。

学生調査を通して、

信大・あなたの学部にはどのような学生がいますか。

学生がどのように勉強しますか、どのように大学生活を送りますか。

教員としてどのように学生に接しますか。

等々

のを知ることができます。



恐らく、先生方が何となくイメージする学生像が多いでしょうが、調査のデータで学生の特徴と問題を具体化することによって、先生方がより効率的に日々の教育に取り組むことに役立つことができれば、なによりも嬉しいです。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

矢部 正之 (YABE, Masayuki) とは、何者？



- ⇒ 元々の専門は、原子核物理（核反応理論）
- ⇒ 医学部にもいました（保健科学と物理学・人間工学）
- ⇒ 高等教育での専門分野は、高等教育における ICT（情報通信技術）の活用

このような経験から、現在の研究課題・関心事は、次のようなことです。興味のある方は、いつでも声をかけてください。（メールは、yabe@shinshu-u.ac.jp）

★学修支援システム【e-Learning センターと共に】

- ⇔ LMS（学習管理システム）や電子ポートフォリオの活用とその効果
- ⇔ モバイル（携帯・スマートフォンやタブレット）を利用した双方向性促進
- ⇔ 画像（動画）の活用（遠隔授業，e-Learning，反転授業）

★教育ビッグデータ【IR 室と共に】（評価・分析とそれに基づく施策提言）

- ⇔ 学修支援システムからのデータ収集
- ⇔ IR（Institutional Research）への活用

★地域との連携【高等教育コンソーシアム信州と共に】

- ⇔ 大学間連携・地域との連携の推進（教育・人財育成，地方創生）



**利用可能な様々な資源を効果的に利用し
教育に活かす！**

私の専門領域は、**初年次教育**です。

全学のFD（特にアクティブ・ラーニング推進や、学生を勉強させる授業デザインなどのFDとコンサルティング）、信大版の初年次セミナー「**大学生基礎力ゼミ**」の**運営と支援、学習支援プログラムの体制構築**（現在は主にライティング支援）、の3つが主な業務です。

…そして会議にたくさん出ています。こんなに毎日何時間も座っていたら、○になってしまうのではないかとマジで心配した時期がありました（笑）。

初年次教育は、

みんなでやろう！

励ましあって元気にやろう！

知恵を出し合ってやろう！

がキーコンセプトです。学生のやる気が最も強い入学直後に、学生と正面から向き合って学生の努力と能力を引き出せる、とてもやりがいのある仕事です。仲間が多いとはまだまだ言えませんが、みんなががんばっています。先生方におかれましても、

学生にもうすこしががんばって勉強してほしい！

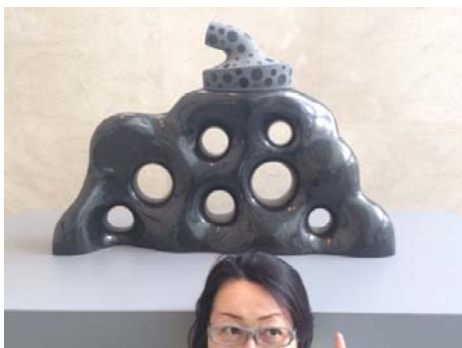
授業の効果を下げずに、授業準備に使っている時間を研究（や家族サービス）にまわしたい！

学生同士で学びあえるような課題をつくりたい！

でもレポートは（コピペせずに）一人で真面目にとりくんでほしい！

そして・・・教育法や教育改善についての実践研究論文を発表したい！

といったご要望がございましたら、お気軽にお声かけください。先生のティーチング・スタイルを聞かせていただきながら、無理のないソリューションをご提案させていただきます。先生方の研究・教育生活のパートナーとして、末永くお付き合いください。



神戸市出身／お笑いではツッコミ担当、でも余裕で天然ボケです。／阪神タイガースファンですが、巨人ファンの先生にもFDしに行きますよ！／歴史好き。大河ドラマもフィクションとして楽しんでいます。／草間彌生ファン。数か月に1度は松本市美術館でエネルギーをチャージします。／好きな作家のひとり、原奈の新作『それまでに明日』を電子書籍で読むか文庫本を待つかいまだに煩悶中。／月に1度は海を見に行くのが楽しみ。／どこにでも歩いて行くためか、町中での目撃情報多数。

2017 年度学習時間に関するアンケート

1. 調査時期と回収状況

- ・調査時期：2017 年 12 月～2018 年 1 月
- ・回収状況：

表 1 回収状況

	1年次			2年次			3年次			合計		
	学生数	回収数	回収率	学生数	回収数	回収率	学生数	回収数	回収率	学生数	回収数	回収率
全体	2,119	1,805	85% (89%)	2,102	1,664	79% (83%)	2,360	1,673	71% (73%)	6,581	5,142	78% (81%)
人教	182	125	69% (75%)	167	83	50% (45%)	161	58	36% (44%)	510	266	52% (56%)
教	246	234	95% (94%)	250	156	62% (84%)	287	202	70% (86%)	783	592	76% (88%)
経	196	179	91% (91%)	204	179	88% (84%)	243	180	74% (79%)	643	538	84% (84%)
理	216	170	79% (83%)	217	181	83% (68%)	220	158	72% (63%)	653	509	78% (71%)
医	124	112	90% (98%)	131	119	91% (87%)	133	111	83% (89%)	388	342	88% (91%)
保	154	123	80% (93%)	156	119	76% (94%)	148	128	86% (82%)	458	370	81% (90%)
工	513	466	91% (92%)	513	425	83% (90%)	640	451	70% (71%)	1666	1342	81% (83%)
農	177	160	90% (93%)	177	159	90% (85%)	189	106	56% (56%)	543	425	78% (77%)
織	302	236	78% (82%)	287	243	85% (91%)	328	279	85% (82%)	917	758	83% (85%)

注：（ ）の中は 2016 年度の値

2. 各種活動の時間

問 6. あなたは、今学期一週間にいくつの科目を履修していますか。

_____ 科目 科目数×1.5 時間＝「授業時間」

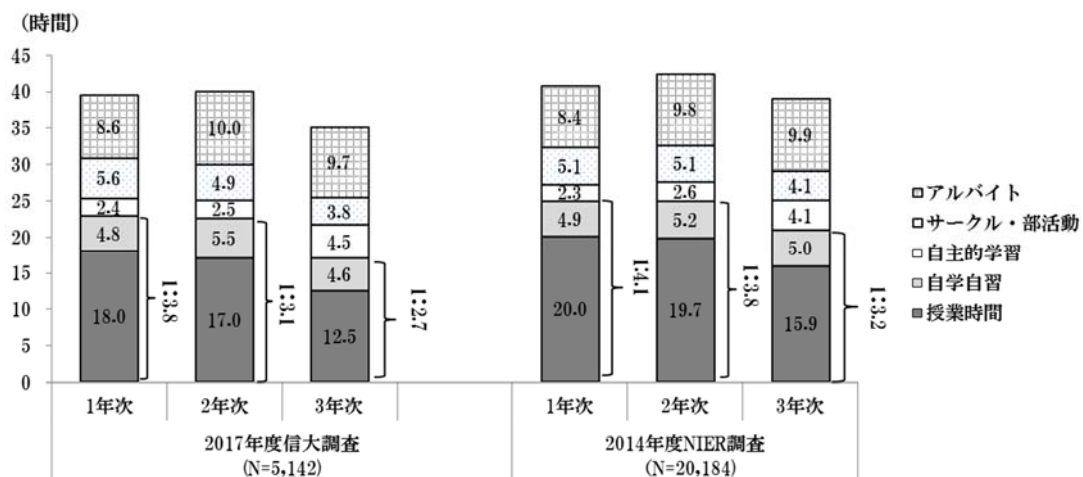
問 8. 授業時間を除いて、あなたは現在、一週間に授業と関連する自学自習（予復習を含む）にどの程度の時間を使っていますか。問 9. あなたは現在、一週間に自主的学習（例えば読書、公務員試験などの資格試験の準備）にどの程度の時間を使っていますか。問 10. あなたは現在、一週間にサークル・部活動にどの程度の時間を使っていますか。問 11. あなたは現在、一週間にアルバイトにどの程度の時間を使っていますか。

図 1 2017 年各種活動時間

1 年次の「授業時間」（18 時間）に対し、予習・復習のために使う「自学自習」時間（4.8 時間）が短い。予習・復習時間は、授業出席時間の 1/4 程度にとどまっている。2 年次と 3 年次になると、授業時間に対する「自学自習」の時間が大きく伸びた。

3 年次の「自主的学習」時間の増加が大きい。

2014 年度の国立教育政策研究所調査（略語：NIER 調査）¹と比較すると、1 週間あたりの学習・生活時間に関して、信大生と全国の平均と大きな差が見られなかった。授業外の予習・復習のために使う「自学自習」時間の平均値のみを見るなら、1 年次と 3 年次が全国平均に少々及ばない結果ではあるが、授業時間に対する予習復習時間という角度から見れば、すべての学年において、信大生の方が若干長い傾向がある。

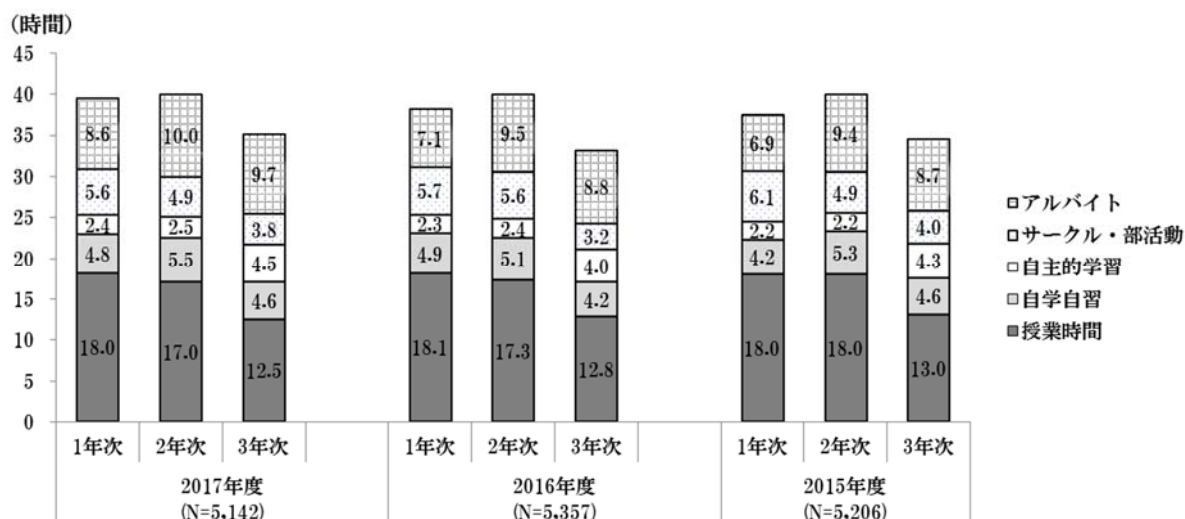


図 2 各種活動時間の経年変化

2015 年度と 2016 年度の各種活動時間と比べると、2017 年度の各学年におけるアルバイトの時間が 1 時間程度増加した。

「授業時間」、「自学自習」時間、及び「自主的学習」時間などの各種学習時間に関しては、大きな変化が見られなかった。

3. 授業と関連する「自学自習」時間の分布

問 8. 授業時間を除いて、あなたは現在、一週間に授業と関連する自学自習（予復習を含む）にどの程度の時間を使っていますか。

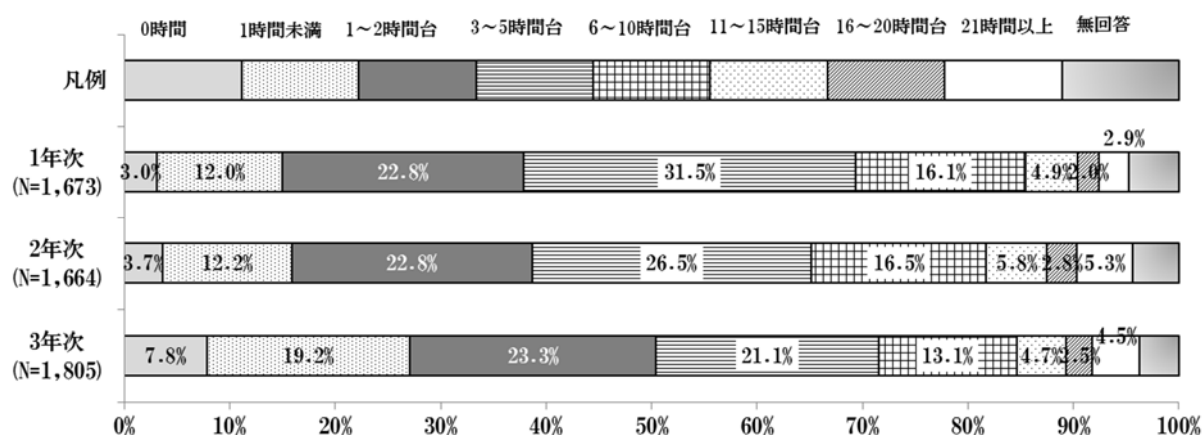


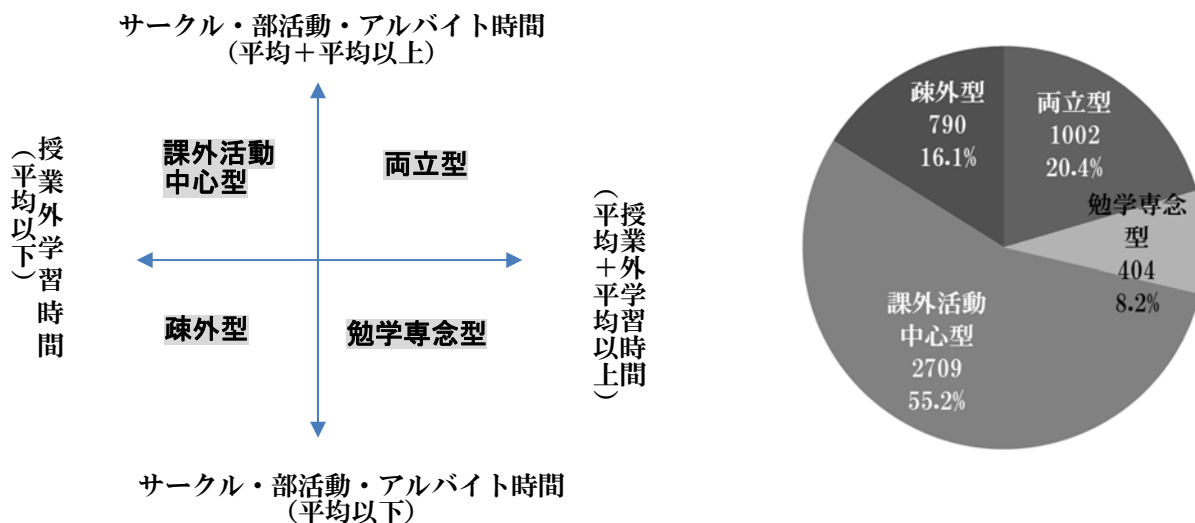
図 3 授業と関連する「自学自習」時間の分布

¹注：NIER 調査は、2014 年に、国立教育政策研究所が全国の大学、短期大学の在学学生を対象に実施した調査である。図 1 のデータは、大学昼間部のデータを示したものである。

1週間に授業と関連する「自学自習」時間が5時間台以下(1日1時間以下)の割合から言えば、1年次は71.5%、2年次は65.1%、3年次は71.5%となっている。7割前後の学生が授業外で、予習復習のために使う時間が1時間にも満たない。

4. 各種活動時間から見る学生の類型

4.1. 学生の類型



注：授業外学習時間（平均）4.98 時間、サークル・部活動・アルバイト時間（平均）：14.19 時間

図 4 各種活動に見る学生の類型

ここでは、授業外学習時間とサークル・部活動・アルバイト時間の長さによって、学生を4つのタイプに分類してみた(図4)。授業外学習とサークル・部活動・アルバイトの平均時間を基準に、授業外学習時間と各種活動時間の両方が平均、ないし平均を上回る学生を「両立型」(20.4%)と呼び、授業外学習時間のみが平均、ないし平均を上回る学生を「勉強専念型」(8.2%)と名付ける。一方サークル・部活動、アルバイトなどの各種活動のみが平均、あるいは平均を上回る学生を「課外活動中心型」(55.2%)、授業外学習時間と各種活動時間の両方が平均を下回る学生を「疎外型」(16.1%)と名付ける。サークル・部活動とアルバイトの時間が大学全体の平均を上回る「課外活動中心型」と「疎外型」の学生を合わせてみると、全体の7割に達している。

4.2. 学部別に見る学生の類型

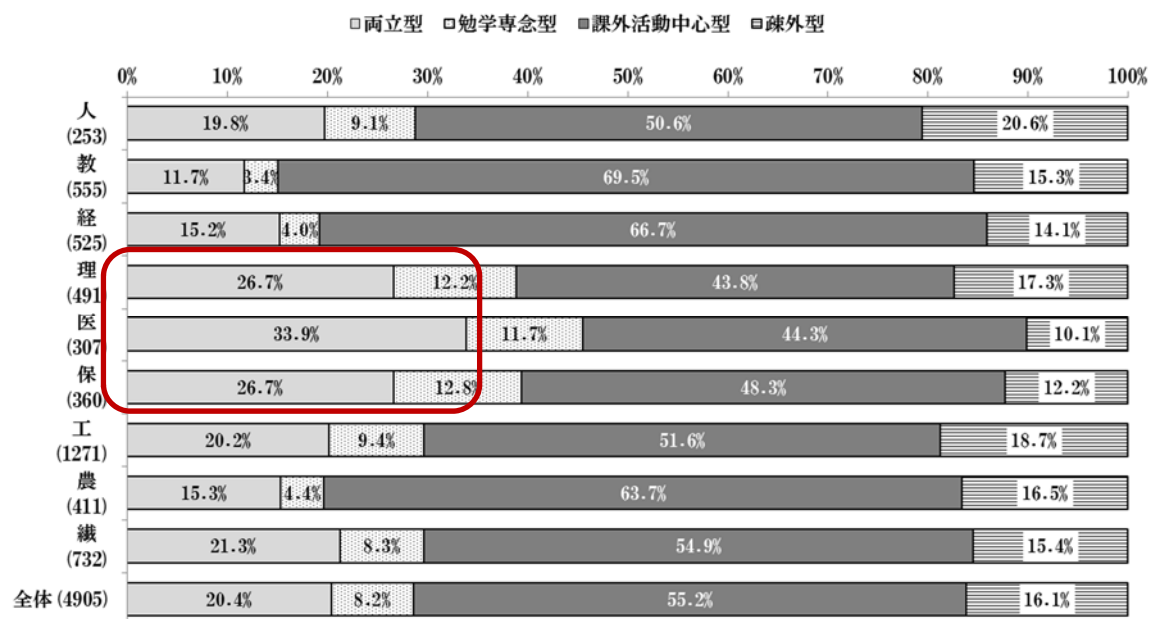


図 5 学部別に見る学生の類型

学部別で学生の類型を見てみると、理学部、保健学科の 26.7%、医学科の 33.9%が「両立型」に属する。

4.3. 学年別に見る学生の類型

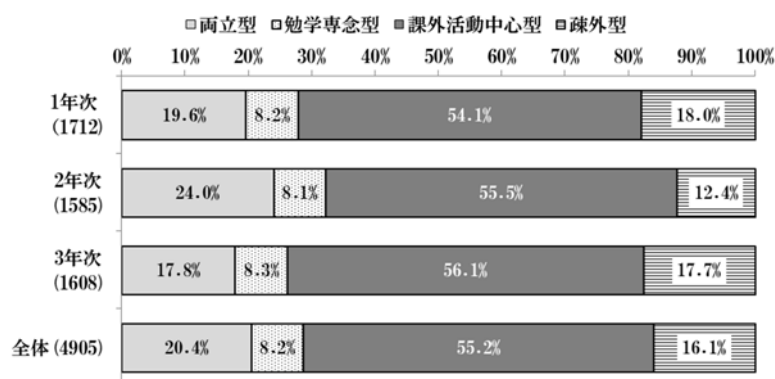


図 6 学年別に見る学生の類型

学年別で学生の類型を見てみると（図 6）、2 年次の学生の中に、「両立型」が最も多く（24.0%）、「疎外型」が最も少ない（12.4%）。しかし 2 年次と 1 年次、3 年次との差がそれほど大きくない。学年による学生類型の差が生じたのは、入学年度によって学生の特徴の違いによるものと、学年によって大学の学習と生活の違いによるものの両方が考えられる。

5. 学生類型別でみる成績

問 13. あなたは前期の GPA はどのくらいですか。

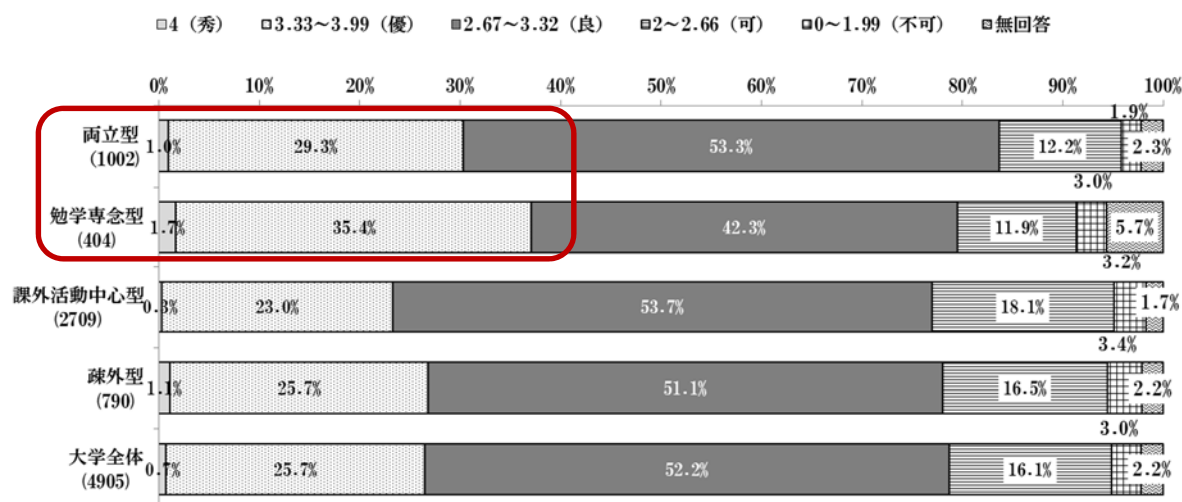


図 7 学生類型別でみる成績の分布

学生類型別で学生の前期の GPA を見てみると、学業により時間を注ぐ「専攻専念型」の学生の成績が最も優れている（秀＋優：37.1%）（図 7）。それに対し、サークル・部活動、アルバイトにより熱心である「課外活動中心型」の学生の中で、成績が振るわない学生が若干多い（可＋不可：21.5%）。このことは世間の印象と一致している。注目すべきは、学習と各種活動の両方に平均、あるいは平均以上の時間を注ぐ「両立型」の学生の中で、「秀＋優」の成績を取得した学生の割合が、「専攻専念型」に次ぐ 2 番目に多いことである（30.3%）。また、「可＋不可」の学生の割合が各学生類型の中で最も少ない。要するに、「学習上手」、「遊び上手」ということは十分ありうることが言える。

6. 毎週予復習を要する科目

問 7. あなたが履修している授業のうち、ほぼ毎週予復習を要する科目（例えば、宿題、小テスト）は、いくつありますか。

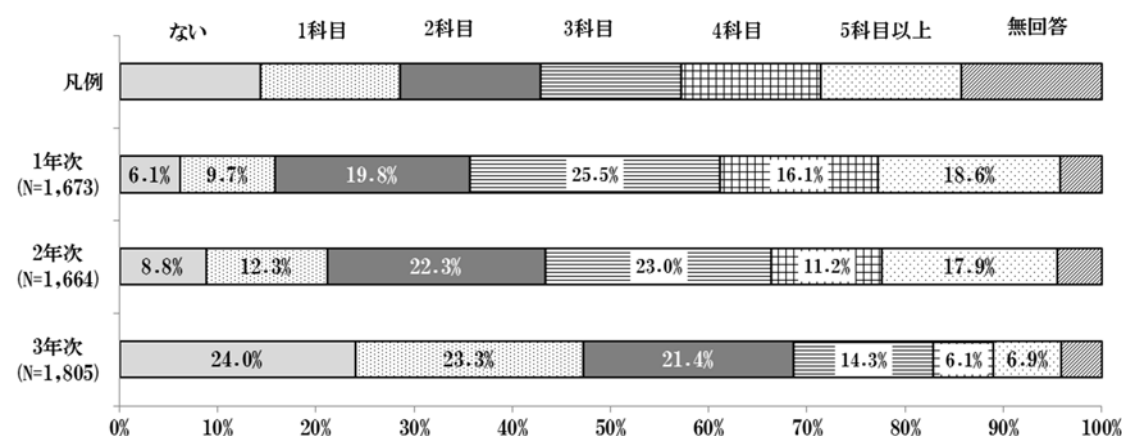


図 8 毎週予復習を要する科目

7. 学習の場所

問 5. あなたは現在、授業時間以外にどこで学習をしていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

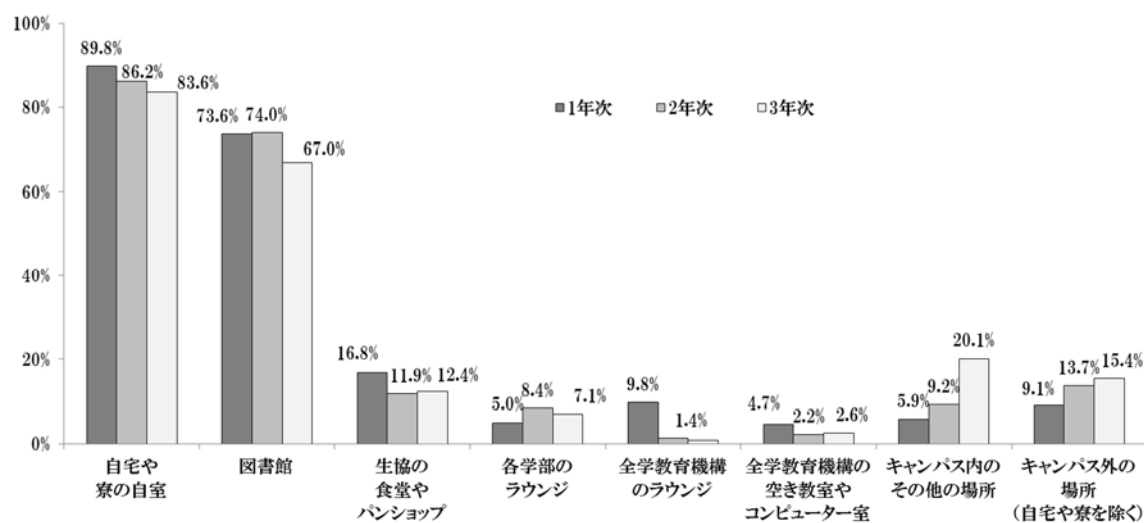


図 9 学習の場所

1 年生の 1 割程度が授業外の学習において、全学教育機構のウランジを利用している。その割合は、全学教育機構の耐震工事が終了したあと、ずっと同じ水準を維持している（2015 年：9.5%、2016 年：10.1%、2017 年 9.8%）。

8. 読書

問 12. あなたは一か月あたり平均何冊本を読みますか（新聞、Kindle などの電子書籍も含む。マンガや雑誌は除く。）

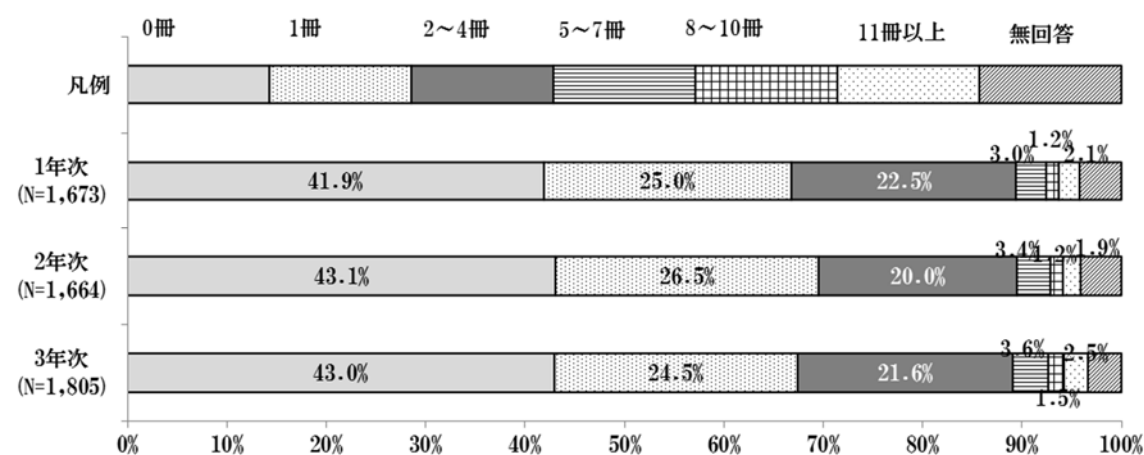


図 10 読書数

本を読まない学生が、各学年において、いずれも 4 割にも達している。